

7月22日発行の包装タイムスに掲載されました

談話室

北原産業（岡山県倉敷市、☎086・526・3040）

は、総合食品容器メーカーとして市場ニーズを探りながら新たな製品開発を続け存在感を鮮明にしている。代表取締役の北原忠氏に現状と展望を聞いた。



北原産業
代表取締役

北原 忠氏

当社はプラスチック

クから紙に至る素材を幅広く扱い、企画開発から生産・販売まで一貫して行う総合食品容器メーカーとして市場に向け新製品の提案を続けています。

昨年5月以降、各を及ぼしています。種イベントも開催数を増やし、観光地に訪日の外国人観光客が数多く訪れ、「コロナ禍」の後の観光産業は円安傾向も重なって順調に事業規模を拡大しているものと

内を注いでいるところでは、この数年間の事業環境を概観すれば、営業手法も大きく変化しています。展示会出展などで新製品を手にとってもらう

「リーズ」も好調で出荷量を増やしています。多用途な食品提案が、これ一つでできる汎用性に評価も高く、何より使用素材が北米や欧州を中心に比重の軽いPP製容器を求める動きが明瞭になってきていることへの対応で、将来を見通しての製品に至りました。

需要獲得へ開発に軸足

汎用性備えた高機能容器提案

と思われる。

しかし、一方で内

需型の傾向の強い包装産業は物価高など先行き不透明感を強め、包装資材の製品出荷量に大きく影響

当社も同様の傾向にあり、今期決算見通しも売上は芳しくない状況と言えます。

従って営業部門は製品価格改定取り組みを強め、ご案

今春、新製品として発表した仕切り付き汎用弁当容器「KEPシリーズ」仕切りのない「KYPシ

り、こちらの反響も高くサンプル出荷の要請も増えていま

今後ニーズを探り新規需要の獲得につながるため、開発に軸足を置く当社だからこそ可能な、素材や機能性の高い容器開発に一段と取り組んでまいりたいと考えます。

「KEPシリーズ」仕切りのない「KYPシ